

週目点

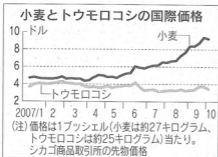


早稲田大学教授

川本 裕子

米農務省は十二日、主要穀物の在庫や生産の動きをまとめた世界農産物生産高予想(需給報告)を発表する。毎月発表され、前月の予想から大きく変更されると国際的な穀物相場に影響を与える。小麦やトウモロコシなどの動向が注目点だ。

最近、国民生活にも関係の深い穀物の需給や価格から目が離せない。国際的な小麦価格は今年に入って天候不順などで上昇を続け、先月末までに年初に比



▶世界農産物生産高予想(12日)

国内保護策見直しの機に

べ二倍の水準に迫る勢いとなっている。トウモロコシはエタノール燃料向けの需要拡大を見込んだ生産増加で、今年に入って価格は低下傾向にある。

日本の農業は長らく国際的な動向から遮断された状況にあった。小麦については近年、国際相場を反映させるよう国内価格制度が改革された。だが、ちょうど国際価格の上昇局面にぶつかり約二十年ぶりに国内価格が引き上げられたのは皮肉だ。食品値上げなど影響も出ている。

小麦も米も国内価格は国際水準からみて高い。農業保護もたらず利点と消費者の負担は見合っているのか。穀物価格の変動もそうした政策評価のきっかけとすべきだ。日本が最近、自由貿易協定(FTA)などで後手に回っている原因は農業保護にあるとの指摘は根強い。国民が穀物価格への関心を高めることには大きな意味がある。